

Sagittarius

京都産業大学通信 KYOTO SANGYO UNIVERSITY CAMPUS HUMAN COMMUNICATION
サギタリウス<第26号>2005年4月

40th
Anniversary
KYOTO SANGYO UNIV.

VOL.26
APRIL 2005

春学期スタート応援特集号

O/OCF Special Talking

社会がキャンパスという学び

キミも挑もう!!サギタリウスチャレンジ

ふたつの募金活動にみる京都産大生のボランティア

連載企画 京都産業大学創立40年の歩み





(表紙のふたり)

- 写真左／石川直実(いしかわなおみ)
文化学部4年生 滋賀県 石山高校出身
- 写真右／荒賀知子(あらがともこ)
法学部3年生 京都府 華頂女子高校出身
- リニューアルした表紙のトップを飾るのは、2004年「世界空手道選手権女子個人組手53kg級」で優勝した空手道部の荒賀さんと、同4月にキエフの「セルジュ・リファール国際バレエコンクール」に出場した石川さん。空手の世界チャンピオンと世界の檜舞台を経験したバレリーナである2人だけれど「二度と道場には出たくない!!もう絶対に踊れない!!」という心の挫折も経験している。
- それについて石川さんが「キエフでの合宿中、ロシアやウクライナの人々の凄さから“あんなこと私にはできない”と怖気づき、バレエから離れたくなった」と語ると、荒賀さんは「高校時代に主な国内タイトルを独占。京都産大入学当初は目標を見失うと同時に負けるのが怖くて空手を遠ざけた」とコメント。
- そんな状況から、荒賀さんが世界チャンピオンをめざすきっかけになったのは、あの谷亮子(当時は田村亮子)選手と出会った際「私もシドニーでの“金”以降、押し潰されそうな重圧を感じている。世界のトップをめざせることを感謝、知子ちゃんも逃げちゃダメ!!」と激励されたこと。石川さんは「この程度の踊りでは絶対に恥かく……と泣きながら臨んだキエフのコンクールだったけど、ハイレベルな中での数週間はムダではなく結果は拍手喝采。さらに大きな国際舞台を夢みるようになった」と瞳キラキラ。
- 次の目標は、荒賀さんが「4年次での世界大会連覇」。石川さんが「キエフ国立バレエ団にプロとして“就職”すること」。世界を相手にする2人だけれど、当面の課題は「しっかり勉強して単位を取る」こと。特に石川さんは「ゼミではバレエの歴史をテーマにしてきた」だけに卒論への意気込みも相当。2人とも、遠征や合宿の予定がびっしり詰まっている中での両立は厳しいけれど「同じキャンパスで過ごす皆さんの応援があれば大丈夫」ときっぱり。大学生として“オンヤレも頑張る”荒賀さんと石川さんへ、キャンパスで出会ったら声援よろしくをお願いします。

accepting 表紙を飾る学生募集!!

登場の資格は京都産大を思いっきり満喫していること。「我こそ!!」という人は総務部広報担当までご連絡ください。

※応募多数時を含め、決定は面談等によるものであることを予めご了承ください。

総務部広報担当／本館3階
TEL.075-705-1411 FAX.075-705-1487
E-mail kouhou-ka@star.kyoto-su.ac.jp



これは本学創立40周年を記念して作成されたロゴマークです。大学の学章であるサギタリウスから五芒星と六芒星を五角形(生命の象徴)、六角形(宇宙エネルギー)に置き換えて表現。「無限の可能性を秘めた京都産業大学」をイメージしています。

www.kyoto-su.ac.jp/

April Events Calendar	
1日[金]	学年はじめ(春学期始業) 入学式(経済学部・文化学部・法学部・外国語学部) サギタリウスチャレンジ・チャレンジ部門応募受付開始／4月30日[土]まで スピーチコンテスト部門応募受付開始／5月16日[月]まで 入学式(経営学部・理学部・工学部・大学院)
2日[土]	入学式(経営学部・理学部・工学部・大学院)
4日[月] 5日[火]	新入生歓迎学生生活オリエンテーション 授業開始
6日[水]	新入生大歓迎祭クラブフェスティバル／5月9日[月]まで 履修登録(本登録)4月18日[月]まで
14日[木]	新入生大歓迎祭クラブフェスティバル／15日[金]も開催
17日[日]	新入生歓迎バスツアー(志学会執行委員会)
20日[水]	サギタリウスチャレンジ・スピーチメイキング説明会
24日[日]	新入生歓迎バスツアー(志学会執行委員会)
30日[土]	サギタリウスチャレンジ・チャレンジ部門応募受付締切り



理学部 講師
平井 重行
(ひらいしげゆき)
hirai@cc.kyoto-su.ac.jp

- 専攻分野/ヒューマンインタフェース
- 担当科目/インタフェース論、プログラミングA、マルチメディアプログラミング、コンピュータグラフィックス論、特別研究IA、特別研究IB、特別研究II-1・2
- 略歴/2001年大阪大学基礎工学研究科単位取得退学・2002年博士(工学)取得 ●趣味/ピアノ演奏(ジャズ)

VOICE of Sagittarius

●このシステムを簡単に説明しますと、お風呂で浴槽に浸かるとその人の動きや心拍数、呼吸などによって様々なサウンドが鳴るというものなんです。お風呂での楽しみ方は人ひとりひとつとありますが、最近ではテレビを見たラジオで音楽を聴いたりする人もふえています。コピキタスというキーワードのもと、携帯電話や情報家電などを利用した様々なサービスを提供する試みが行われています。それを一般家庭の住宅で、しかもかなり特殊な環境である浴室に対して何かできないかと考えました。そこで単にテレビやラジオのように受動的に楽しむものではなく、自らの行為によって様々な楽しみ方ができるものを作りたいと思い、今回のシステムを開発しました。しかもこのシステムは単に楽しむだけのものではなく、入浴状態を表現した音で自分の健康状態を知ったり、その音をキッチンにいる家族が聴く事で入浴事故防止への応用なども可能なのです。

●皆さんは意外に思うかもしれませんが、血圧の急激な変化等による入浴中の死亡事故数は交通事故死者数よりも多いという社会的な問題もあります。状態の変化に早く気付けば事故は未然に防げるのですが、当然ながら風呂場で映像によるモニタリングをするにはできないので、それ以外の手段で事故を未然に防ぐための技術やアイデアは非常に重要な課題でもありました。このあたりのアイデアや試作システムの開発の話をまとめたのが今回受賞した論文です。

●学会が評価してくれたポイントはふたつ。ひとつは音で様々な入浴中の物事を表現するというアイデアです。警鐘ブザーのようなものではなく、ゆったりしている時はゆるやかなヒーリング系の音楽が奏でられたり、お湯をバシャバシャとかき回したりするとそれに合わせたサウンドの変化が起こったりします。他にも心拍数が音楽のテンポとして表されたり、深呼吸するとそれに合わせたサウンドが鳴ったり、と様々な形で入浴状態を表現できるようになっています。このサウンドは単に素人が適当に音を割り当てたりしたのではなく、ちゃんとプロのアーティストとの協同作業でデザインをしています。入浴者自身が楽しむと同時に他の人への情報伝達手段としても利用できるよう、ちゃんと考えて作っている点が評価されています。



ヒューマンインタフェース学会2004年の論文賞を受賞

●もうひとつは既存技術をベースにシステム開発できる早期実現性の高さです。現在普及している全自動と呼ばれるお風呂では、給湯温度や湯張り量の調節ができるんですが、それには温度センサーや水位センサーが既に風呂内に組み込まれているわけですね。また、電極を体に貼り付けずに湯に浸かるだけで心拍数が計れる浴槽が市販されたりもしています(以前の職場ではその研究開発にも関わっていました)。この研究ではこれらのセンサ技術を活用する形で、サウンドのためのソフトウェア処理を追加することでシステム開発を行ったんです。要は、実際の製品やサービスとして実現しやすいということになり、それが評価されたわけですね。

●人の入浴状態をサウンドや音楽としてデザインしたことは、「技術と人を結びつなぐ」インタフェースとしての意義が、学生諸君に注目して欲しいのは、「趣味」がそこに繋がっているということです。自分の小学生時代の習い事はピアノ。当初は嫌々ながらという側面もあったけれど、中学以降はいろいろな音楽ジャンルのバンドを始め、サリマンや大学教員になっても様々な形で音楽活動を行っています。それがあってこのようなシステムの発想が出てきたと思いますし、知り合いのアーティストとコラボレーションが行えたことで、自分はシステムのプロデューサーに専念できました。

●だから皆さんも「自分の好きなことをもっと大切にすべし」と思います。中途半端に好きなのではなく、こだわりの持つて長く取り組むと、やがていつかは役に立つチャンスがやってきます。ヒューマンインタフェースをはじめ、生活に繋がる分野での研究や開発の仕事を志すなら、多方面への興味や好奇心、知識は不可欠です。音楽デザインについてはアーティストやクリエイター達とのコラボレーションも欠かせません。研究室に閉じこもるのではなく、いろいろな個性と出会う総合大学ならではのキャンパスライフを謳歌しましょう。

●この研究の今後については、産学連携に関わる企業秘密もあること、ここでは語れないが残念。でも大いなる発展を期待して下さい。かの名曲のタイトルじゃないですが「バスルームから愛を込めて」この研究はまだ続きます。

●社会注目の研究やスポーツ指導、教学改革などに取り組む教員による「VOICE of Sagittarius」コーナー。質問やご意見など、記載の教員メールアドレスまでどうぞ。

May

- 13日[金] 香港中文大学新亜書院J-Pプログラム/6月11日[土]まで
- 16日[月] サギタリウスチャレンジスピーチコンテスト部門応募受付締切り
- 24日[火] ウェルカムコンサート(要学生証入場無料)
(志学会執行委員会)

June

- 17日[金] カリフォルニア州立大学リバーサイド校
J-Pプログラム/7月19日[火]まで
- 29日[水] サギタリウスチャレンジスピーチコンテスト(英語部門)本選大会

Sagittarius 京都産業大学通信

KYOTO SANGYO UNIVERSITY

CAMPUS HUMAN COMMUNICATION PAPER

サギタリウス第26号/2005年4月

春学期スタート応援特集号

contents.....

O/OE Special Talking
社会がキャンパスという学び..... 3

キミも挑もう!!
サギタリウスチャレンジ..... 7

ふたつの募金活動にみる
京都産大生のボランティア..... 9

連載企画
京都産業大学創立40年の歩み
シリーズ「1963年〜1975年編」..... 11

情報満載
キャンパス@メール..... 13

ヒューマンレポート
こんにちは-KYOTO SANDAI人..... 15



サギタリウスは射手座。
その意味は希望。宏大無辺な大宇宙を駆けめぐるギリシャ神。
新しい時代の青年の将来と世界的雄飛を期待する本学の学章です。

今年度の発行予定<2005>●7月/VOL.27 ●10月/VOL.28 ●12月/VOL.29
<2006>●3月/VOL.30

社会がキャンパス という学び

1年生
必見



森井 綾

(もりいあや)
経営学部2年生
三重県 上野高校出身

大國●僕の場合、フォーラムへの参加呼びかけが熱心だったので「大学がこれほど気合を入れてるカリキュラムにはなにかある」と思った。それでフォーラムに参加、説明を聞いたけれど、新1年生だった僕にこのカリキュラムのよさが理解できなかったのは事実。

仙波●入学早々、それまでの受験勉強のBGMだったキッス・エフエム神戸の平沢社長が講師であることに興味を覚え、「O/OCCF」フォーラムに参加したのが履修のきっかけ。

森井●私の夢、というより目標は外国企業で働くこと。それで入学前から大学案内などをみて、2年次から本格的なインターンシップが行える「O/OCCF」に関心をもっていました。それで担当部署(教務部)を訪ねて説明を聞き、迷わず履修登録したのですが、先輩お2人はどんな感じだったのですか？

履修のきっかけは
フォーラムへの参加

大学内での学び(On Campus)と、学外でのインターンシップやフィールドワークでの学び(Off Campus)。これを往復・融合(Fusion)しながら「気づき」とその見直しや強化に取り組む「オン・オフ・キャンパス・フュージョン」。現代社会が求めている根幹的な基礎能力(Technical skill, Human skill, Conceptual skill)を、4年間の履修を通して養う正課の「授業」です。昨年度の募集案内、その冒頭には「大学の4年間で「明確な目的や意識をもっておくた学生」と「ただなんとなく日々を費やしてしまった学生」の差には大きなものがあります」と記されていました。2年間の履修で、すでに「大きな差」が生じはじめているのかどうか……。基礎的カリキュラムの履修をおえた森井綾さん(2年生)が、いよいよ本番の時期を迎える同じ先輩2人(ともに3年生)に訊ねます。

森井●確かに、学内での「On」と学外の「Off」を往復。自分を検証しながら能力を養っていく……といわれても、1年生ではピンときませんよね。でも、先輩は2人とも「履修登録してよかった!!」と思っているんですよ。

大國●議論すべきであることを認め、敢ていうけれど、僕は「インターンシップは参加するだけで意義がある」とは思わない。社会を体験するだけならアルバイトでもできる。近頃は中学校にだって就労体験のプログラムがある。この「O/OCCF」がそれと大きくちがうのは、疑似社会人として職場等に入り込むことを前提に半期をかけて準備し、さらに半期をかけて行った先での自分が「どうであったか」を検証する時間があること。

仙波●就活の準備として、3年生になってインターンシップに行く人もいられるけれど、それはどうしても参加型に終わってしまうのでは。実のある、真の体感型「インターンシップにしようとするなら、その前後の時間がとても大切。

森井●学生にとっては「会社に行くだけ」で精一杯だから「O/OCCF」のように授業として準備・検証する時間が十分に設けられていないと、自分勝手に満足(あるいは不満に思ったり)して、おわっちゃ「んですね」。

大國●森井さんはこの春期休暇中に当座談は2月に実施)1年次のベーシックインターンシップを「飛び級」するようなイメージで、北京のIT系企業に赴くとのこと。それはやっぱり、準備をしっかりと整えることができたからだね？

森井●そのつもりです(笑)。



大國 良昌

(おおぐによしまさ)
経営学部3年生
島根県 松江南高校出身

新1年生は
フォーラムに参加を!!

●新1年生を対象とした今期の募集定員も100人。これまで同様、希望者には筆記と面接による選考を行います。但し、多様な個性が集まる相互刺激も学部横断型授業のポイントであり、選考は「自分らしさ」を発揮することが課題だと考えてください。履修登録の締切りは5月中旬の予定(受講は秋学期から)。

●まずは開催される「オン・オフ・キャンパス・フュージョン・フォーラム」に参加することが先決。「募集説明会」もフォーラム終了後に行います。日時・場所等は掲示板やインターネットでお知らせします。

●お問合せは「教務部」まで
10号館1階

on
cial Talking

研修に取り組む1年次の ベーシックインターンシップ

森井 ●先輩お2人のベーシックインターンシップはどのようなものでしたか？

仙波 ●日数が3日なので、今後のことを考えて3カ所を研修した。最初に行ったのがトヨタ自動車（株）堤工場。ここで見たのは、まさに「21世紀」な最先端システム。次に訪ねたのがオムロン（株）と社会福祉法人太陽の家が設立したオムロン京都太陽（株）という会社。ここは障害者の方が電子機器部品の組み立てに従事することで、その自立を支援しようとする場。福祉と産業の連携というテーマが社会にあることを知った。最後に研修させてもらったのが「京都丸染工」。代表的な地場産業である染色、それを支えている職人さんたちの働き。わずか1日の研修だったけど、「手に技ある者の誇り」を強烈に感じた。

大國 ●この「O/OCCF」では1年次の秋学期を通して、主に「話すことを狙いとした」「コミュニケーション能力」を養成していく。僕はその成果がどれほどか試してみたかったんで、それまでの自分とまったくなじみのない農業法人に3日間通った。その（有）グリーンパワー長浜では、見ることも聞くことも、すべて知らないことばかり。あらためて「話すためのコミュニケーションの基本は聞くこと」だつて実感した。学内（On）での入念な準備がなかったら、ここ（Off）での体験は、お客さんでわっていたはず。

第2回目となるウォーミングアップ

インターンシップは2年次の夏季休暇中

森井 ●2年次夏季休暇中のウォーミングアップインターンシップはどうでしたか。その前の春学期では書くことを狙いとした「コミュニケーション能力」の養成が主になるのですよね？

大國 ●「話す（すなわち聞く）と書く」基礎能力のトレーニングを経て僕が臨んだのは、出身地の島根にある高齢者へのお弁当宅配を事業にして



いる会社。「O/OCCF」のインターンシップ先は、

大学が予め用意したリストから選ぶ「プリセットプラン」と、自分で探してくる「マイプラン」があるけれど、「マイプラン」があるけれど、調理補助や宅配のお手伝いから、ディスプレイセンターや個人宅への営業同行まで経験させてもらった。

森井 ●先輩はそこなを感じられたのですか？

大國 ●「高齢者へのお弁当宅配」って、自分の汗や

努力がダイレクトに社会貢献につながる感じがあつてうれしよね。でも、それが事業である限り、利益を生みだしていかないと継続して行えない。どんなに良い行いであっても、続けられなければ意味がない（どころか迷惑）。そういう「ビジネスにおける社会責任」を痛感した。

仙波 ●僕も地元企業の企業がよかったから、「マイプラン」方式で探して行つた。2週間、思っていた以上にみっちり、働いたと自負している。でも、それはちよつとしたミスタイクがもたらした結果でもある。

大國 ●なにそれ？

On Off Campus Fusion

★この「オン/オフ・キャンパス・フュージョン」は文部科学省より、平成16年度の現代GPP（現代的教育ニーズ取組支援プログラム）に採択されたカリキュラムです。

information
Spe



仙波 養三
(せんばようぞう)
経営学部3年生
兵庫県 北摂三田高校出身

仙波●地元の地域は「金物のまち」を標榜していて、その会社も工具では有名なブランド。だから僕はつまり「メーカーだ」と思い込んでいた。でも、製造は現在すべて協力会社が請負っていて、その会社に工場はなかった。先のベシックインターンシップがそうだったように、僕は就職イメージもふくめてメーカー志向。当初のショックは相当だったけれど、そこは注目の「O/OCCF」履修学生。逆に「自分のなかのメーカー志向って実態はなになのか」が確かめられるよい機会だと考えた。また、ちがう業界を知らずに就職して「しまう」かもしれない自分に与えられたチャンスだとも考えることができた。するとモチベーションは当初より高くなり、物流センターでの仕分けや梱包といった作業も楽しく頑張れた。

森井●私たちって有名企業ほど、自分勝手に「こういう職場」という仕事」ってイメージする傾向が強いんですよね。それでインターンシップの「ミスマッチ」がおこるようですが、仙波先輩の「立ち直り方」はさすが「O/OCCF」履修学生だと思つた。

それこそが社会であり 会社であることを知る授業

大國●実社会について約1年かけて勉強しても、仙波くんのようにミスセレクトしてしまうのがインターンシップ。でも、彼のようにインターンシップ本来の目的を理解していたら、ミスをメリットに考えられる。森井さんを待つ北京のIT企業も「入り込んでわかる実際」がいっぱいあるはず。当然「思っていたのとちがう」なんてことも多々あるでしょう。でも「それこそが社会であり会社である」と僕らはこの授業を通して教えられているわけだから、肩のちからを抜いて頑張ってきてください。

仙波●それにしても1年生で海外インターンシップに取り組むなんて……探してきたのもスゴイけど、決意して実現させるのはもっとスゴイ!!

森井●外国企業に勤務する目標、現実的に考えるとすつと「中国かな」って思っていたんです。だから入学以来、中国語の授業も受けてきました。

このインターンシップが実現できる運びになったのは、先生や担当スタッフの方のおかげ。相談したら「よし!!なんとかしてやる!!」って言ってもらえ、その言葉に後押しされて決心したんです。でも、そういう猪突猛進系の私だから、大國先輩のアドバイスは効きました(笑)。

仙波●それもこの「O/OCCF」を履修するメリットのひとつ。クラブ等に所属していないと、先輩からアドバイスを聞く機会は意外と少ないからね。

大國●1学年100人だから、僕ら「O/OCCF」1期生と森井さんら2期生も多くは顔なじみ。そこに全学部の学生が入り交じっているから、アドバイスの幅も広がる。

アルバイトとインターンシップは なにが大きくちがうのか

森井●仙波先輩は先程「みっちり働いた」と言われました。そこで質問。アルバイトとインターンシップはなにがちがうのですか?

仙波●アルバイトにはお金という対価があるから、社会体験からなにかを得ようとする貪欲さが生まれやすい。インターンシップは、具体的な対価がないから、あらゆる体験に対して貪欲になれる。

大國●極論すれば「同じ時間・同じ仕事」をしたら、インターンシップはなにかを学ばないと。とてもソン「なわけ。このモチベーションのちがいは、体験してみたらわかる。



第3回目のインターンシップは

「オン・ザ・ジョブ・トレーニング」がテーマ

それらを経て4年次に根幹的基礎能力を総仕上げ

「O/OCF」履修
学生への期待

培われた社会性を発露し、
新たなリーダーとなって欲しい。

学長 坂井東洋男



アルバイトではなく、疑似ながらも社会人として事業活動に参加させてもらうインターンシップは、学生にとって意義深いプログラムです。

卒業後、社会への確かなコミットメントを望む学生たちが、そのトレーニングとして注目するのも当然といえるでしょう。

しかし、受け入れていただく企業・機関の負担は相当です。「次代を担う若者の育成に貢献する」という論理はあるものの、それらは企業・機関の負担に応分なほどのメリットではありません。

この「オン/オフ・キャンパス・フュージョン」は、これらのことも念頭にいたカリキュラムでもあります。学内での事前授業により、インターンシップに臨めるだけのコミュニケーションスキルを修得させておくことで、受け入れ側の負担を少しでも軽くできればと願っています。

同時に、そのような事前準備や事後の検証はインターンシップの教育効果をさらに高めるものであり、企業や機関が「次代を担う若者の育成に貢献したい」とされる気持ちに応えるものでもあります。学生にとって肝要なのは自らの成長が、このように人々の手を煩らわせていることを自覚することです。また、そのような認識こそが、社会性の第一歩であることを知って欲しい。そして、大学と社会を往復した経験から自らの未熟さを痛感しつつ、社会が諸君の成長に期待していることを実感、学生の本分である勉学に努めるモチベーションを高めてもらいたいのです。今年度新1年生も100名の希望者が、この「O/OCF」を履修することになるでしょう。そして4年間を通して成長を果してくれることでしょう。だが、どうか「自分だけのこと」に留まらず、この画期的なカリキュラムによって培われた社会性をキャンパス内においても発露し、仲間たちへ好影響を及ぼす存在となってください。新たな100名が、京都産業大学の新たなリーダーとなることを望みます。



森井 ● 先輩たちの今後の予定はどのようになっていますか。

大國 ● まずは春学期、これまでに作成した「ライフプラン」の見直しを行う。同時にシステムの思考やプレゼンテーション能力等の養成に取り組む。

仙波 ● 夏季休暇中のインターンシップは「オン・ザ・ジョブ・トレーニング」がテーマだからまさに本番。

国内10日以上、海外1カ月程度がその日程。僕は家電メーカーに、2週間行ってみたいと思っている。但し、インターンシップが受け入れ企業にとって「どれだけ大変か」は、これまでの経験から理解しているので、学生ならではのアイデア提供など、微々たるものでも恩返しできるように心がけたい。

大國 ● 僕はベンチャー企業など、今度も個性的な事業に取り組む会社に行きたいと思っている。

森井 ● そして4年生で、それら経験の集大成をおこなって、「根幹的な基礎能力」が培われた人材として巣立っていかれるんですね!!

大國 ● となるよう、この1年間が「O/OCF」の本番と考え、すべてに積極的になろうと思っている。

仙波 ● 森井さんも北京で頑張ってきてください。報告会が楽しみです。

森井 ● ありがとうございます!!



O / Off Campus

キミも挑もう!! サギタリウスチャレンジ

サギタリウスチャレンジは、意欲ある学生にこたえるサポートプログラム。
チャレンジ部門では「こんなことをやりたい!!」という企画を、
スピーチコンテスト部門では「外国語が上手になりたい!!」という向上心を、
エッセイコンテスト部門では「自分を見つめて心を文章にしたい!!」という探求心を、
それぞれサポートするための奨励金が支給されてきました。
さて、今年度はどのような意欲ある学生たちがサポート対象となるのか。
昨年度チャレンジ部門で企画採択されたワークショップの当日や、
表彰学生のコメントを参考に“さあ”今年の構想を練りはじめよう。

Let's Study ケータイサイト みんなで学ぶワークショップ

Report
3.5 2005



小学生たちへ大切な気づきを プレゼンテーション!!

2002年の4月、武道部系男子学生を中心に
結成された京都産業大学学生地域安全推進隊(サ
ギタリウスチーム)。上鴨警察からも委員状の交
付を受け、地域の防犯ハトールなどを行ってき
た団体です。

結成から2年、女子メンバーも加わった彼等が活
動の充実に向けてチャレンジ部門に応募。企画採
択された「Let's Study ケータイサイト」みん
なで学ぶワークショップが3月5日、神山ホー
ル第1セミナー室で実施されました。

午前10時、事前に参加申込のあった柘野小学校
と大宮小学校の5年生と6年生、保護者の方々
が迎えるバスに乗って到着。司会は武道部系のチ
ームに「笑い」を持ち込もうと入隊した「落語長
屋」所属のメンバー。著名お笑い芸人を数多く輩
出した本学落研の伝統はさすが。小学生を相手
に「つかみはオッケー」状態で開会。

最初のプログラムは実例紹介。京都府警から提
供された資料も加えて
パワーポイントを駆使。
ネット犯罪や個人情報
の保護、著作権の侵害な
どに関する問題が紹介
されました。

次におこなわれたのが、
身に覚えのないサイト
使用の高額請求や「オ
レオレ詐欺」の実演。ケ
ータイが手渡された参
加小学生へ、メンバーが
悪漢に扮して電話。「お
年玉」を狙った手口が実
演されました。

続いては「護身術」のレ
クチャー。まずは「逃げ
よう!! 助けを求めよう
!!」が最強の護身術

であることを教えて、切羽詰まった際に「子供が
できる技」を柔道部員が紹介。小学生が被害を受
ける凶悪事件も続出しているだけあって、同伴の
保護者のみなさんは真剣そのもの。腕をつかまれ
た時、後から抱きつかれた時、それぞれの脱出技
を小学生が「本気」の柔道部員を相手に試してみ
ると……本場に逃げられたから会場は拍手喝采。
ここで休憩をかねて、小学生たちはキャンパス見
学に出発。案内は入学センターによるキャンパス
ツアーのガイドでもある女子メンバー。残ったメン
バーたちで会場を昼食会用にレイアウト変更。
和やかな昼食を過ぎて閉会したのは午後1時。
送るバスに乗り込むメンバー、元気に手を振って
くれる小学生たち。こたえるメンバー。多くの気
づきを小学生たちに与えるとともに、大学生が地
域にふれあうという基本テーマもしっかり。よき
土曜日となりました。



言葉は大切なコミュニケーションツール

中国から日本に來日して今年で5年。つくづく感じるのは言葉の大切さ。生まれた国や文化が異なっている、同じ言葉を交わすことで、お互い理解し合えるし、心が繋がったように感じられます。京都に來た頃は、なかなか日本語で話したが、入学してコミュニケーション力がアップ。日本人学生はもちろん、留学生との交流も深まり、充実した学生生活をエンジョイしています。

日本語でのスピーチコンテストに応募した動機は、自分のチャレンジ精神を試したかったから。限られた大学時代「勉強だけ」では惜しいです。スピーチでは、日本に來て困ったエピソードを主に話しました。でも、それはややウケ狙い(笑)。実際はとても恵まれた留学生活だと感じています。京都産大生たちをはじめ、周囲の日本人はみんな優しく、たくさん助けてもらいました。今回でスピーチコンテストは二度目で前回は優秀賞。最後のチャンスとなる今年も参加して、次はぜひ1位であるサギタリウス賞をゲットしたいですね。

※本学ホームページ(www.kyoto-su.ac.jp/)教育の特色「サギタリウスチャレンジ」のサイトにアクセスください。辺昌南さんのスピーチを聴くことができます。



スピーチコンテスト部門(日本語スピーチ)優秀賞

辺 昌南

(へんしやうなん)

経営学部4年生(外国人留学生入学試験利用)
中国 琿春市第二高校出身

文字にすることで 夢が強固に!!



エッセイコンテスト部門 優秀賞

後藤 アイ子

(ごとうあいこ)

文化学部4年生
愛知県・桜花高校出身

昨年の夏休みに1カ月間、海外インターンシップに参加。サンフランシスコでの生活を満喫しました。でも、それで私はなにを得たのか、楽しかっただけではないのか……具体的な成長が見つけられず、気づけば心はモヤモヤ状態。

そんな時、友人が見つけたエッセイコンテストの応募要項を見て「これだ!!」と直感。書くことで「自分の気持ちが整理できるかも」と考えたんです。予感的中。語学力が格別上達したわけではないのに、「相手に想いを伝える能力は身につけていた」と発見できたのです。同時に、漠然とした「小学校から演奏してきた大好きなジャズに関わってみたい」という夢も「本場アメリカの大学でジャズを研究する」という具体的な目標に進化。あらためて、自分の思いや考えを文章にする大切さを実感しました。

卒業後は、そのための資金稼ぎと社会勉強を兼ねて就職します。就活は現在進行形で頑張っていますが、決まればNY留学中の友人宅に遊びに行く予定。今回の奨励金は、その旅費に充当します(感謝!!)。書くことで探していた自分が見つかり、運がよければ奨励金ももらえる。こんなおトクな企画を利用しないのはもったいない!!ですよ。

※本学ホームページ(www.kyoto-su.ac.jp/)教育の特色「サギタリウスチャレンジ」のサイトにアクセスください。後藤さんの作品を読むことができます。



サギタリウスチャレンジに応募しようと企画を練っていた時、長崎県で女児殺害事件が……。それはインターネットの掲示板やチャットでの中傷が引き起こした痛ましい事件。パソコンの正しい使い方やマナー、インターネットには特有の危険が潜んでいることを伝えたいと考え、このワークショップをプランニングしました。また、帰宅途中の児童が誘拐されたり、されそうになった未遂事件も多発しています。そのような現状をふまえ、今後は護身術も伝えていきたい。昨年好評だった保育士100人を対象に行った護身術の講習会など、今後は僕らが出向いていく活動を充実させていきたいと思っています。

青少年の安全を守るために力を尽す!!



comment

チャレンジ部門企画採択団体
京都産業大学学生地域安全推進隊
サギタリウスチーム隊長

津川 大輔

(つがわだいすけ)

経営学部4年生・兵庫県 報徳学園高校出身

Let's
TRY!!



Sagittarius Challenge 2005

募集要項

部 門	応募期間	募集(スピーチ)テーマ	表 彰(奨励金)
チャレンジ部門 ※2004年度実績 申請22件に対して企画採択8件	4月1日～ 4月30日	自 由	認定企画へ最高50万円
スピーチコンテスト部門 ※2004年度実績 英語スピーチ本選出場10名・ 日本語スピーチ本選出場9名	4月1日～ 5月16日	私と国際貢献 私と世界平和 私の異文化体験 私と日本語 私の留学生活 私の学生生活 など ※英語・日本語どちらも独自テーマでも可 なにをどのように話せばいいの? そんな方のための「スピーチメイキング説明会」を開催します。 スピーチメイキング説明会 4月20日[水] ●時間/13:15～ ●会場/12号館12303教室	サギタリウス賞5万円/各*1名 優秀賞3万円/各*1名 入賞1万円/各*3名 *英語スピーチと日本語スピーチ
エッセイコンテスト部門 ※2004年度実績 応募42作品から8名を表彰 (募集時の公表は今年度同様の7名)	10月11日～ 10月24日	10年後の私	サギタリウス賞5万円/1名 優秀賞3万円/2名 入賞1万円/4名

★詳細は本学ホームページでお確かめください

<http://www.kyoto-su.ac.jp> >> HOME >> キャンパスライフ >> サギタリウス・チャレンジ

イア



CSAによる新潟県中越地震への被災者支援募金活動

約1カ月間の昼休み中
キャンパス4カ所での呼びかけで
募られた金額は25万5,693円

リーダーとなる窪田陽平(外国語学部英米語学科4年生)君が、小学校5年生の時にあった阪神淡路大地震。彼自身は被災しなかったものの、映像で感じた衝撃は凄まじく、子供ながらも小学校で募金活動を行った。

その時のことが脳裏にあった彼は今回「京都産大生による支援ボランティアに参加しよう」とするが、学内にはその機関と機会がなかった。それなら「自分たちでやろう!!」と仲間呼びかけ、5人でボランティアグループ「CSA」を立ちあげた。学生部にキャンパスでの募金活動を申請したのが11月4日。異例のスピードで許可がでたのが11月10日。金員の管理方法などの協議やスタッフ間での徹底、広報などを重ね、彼らが丸善前、12号館前、10号館前、三叉路、4カ所での募金呼びかけに立ったのが11月22日。参加した学生スタッフはその時26人。

2004年10月23日 新潟県中越地方で地震、震度6強を3回観測、死者36人(30日現在)、被災後の心労による急死相次ぐ、避難住民は二時10万人超える、上越新幹線が脱線、新幹線開業以来初
※共同通信社ホームページ「重要日誌」より

2004年12月26日 インドネシアのスマトラ島沖でマグニチュード9.0の巨大地震が発生、地震に伴う津波がインド洋沿岸の10カ国以上を襲い日本人17人を含む約12万4000人死亡(31日現在)ロイター通信
※共同通信社ホームページ「重要日誌」より

それから12月20日まで、昼休みの間ずっと募金の呼びかけを行い続けた彼ら。募られた金額は計25万5,693円。12月22日に全額、日本赤十字社新潟県支部に送金された。その時、関わるスタッフの数は50人になっていた。

<活動データ>

- 団体/CSA (Community Service Association)
- 目的/新潟県中越地震被災者支援募金
- 場所/丸善前・12号館前・10号館前・三叉路
(学生部カウンターでの募金箱設置も実施)
- 期間/2004年11月22日~12月20日
- 募金額/255,693円
- 寄付先/日本赤十字社新潟県支部

メンバー5人ではじめた活動が50人となったからには“次”がある

CSA代表
窪田 陽平
(くぼたようへい)

外国語学部英米語学科4年生
愛媛県 今治東高校出身



comment

よ!!と声をかけてくれたけど、なかには「ワタシにできることはない?」や「オレにも手伝わせてくれよ!!」と言ってくれた学生も。この活動を終える時には総メンバーは50人。募金も予想以上に集まったけれど、「人も集まったことは素直に喜んでいきます。学部や学年の構成もカフフルになりました。」

●このように、キャンパスに、ボランティアに取り組むタネは播けたと思うので、この50人の活動からなんらかの芽生えをおこしたい。次の計画は被災された小学校や老人ホームなどに「花の種」をおくること。花を育ててもらうことが、心のケアにつながる良いなと思っています。それらをどのように実施すればよいか、京都府立植物園へのヒアリングもはじめています。



ふたつの募金活動にみる 京都産大生のボランティア

「新潟県中越地震」と「インドネシア・スマトラ島沖地震津波」。

このふたつの震災被害に対して、自分たちにできることはないかと行動をおこし、
キャンパスでの募金活動に取り組んだ2グループ。

「CSA」と「インドネシア語専修有志」の活動を紹介します。



有志代表
大柿 亮祐

(おおがきりょうすけ)

外国語学部言語学科
インドネシア語専修3年生
京都府 福知山成美高校

comment



**募金活動からはじまった僕たちけど
今は「現地の肉声」を日本に伝えることも**

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

在學生と卒業生の協力により
実質わずか10日間の活動ながら
募られた金額は65万3,710円。

外国語学部言語学科
インドネシア語専修有志による
スマトラ島沖地震津波への
復興支援募金活動

「インドネシアのスマトラ島沖で大地震が発生し津波による周辺地域の被害は甚大」。このニュースに接した時、有志代表となる大柿亮祐(外国語学部言語学科インドネシア語専修3年生)君は、インドネシア語を学ぶ者として「遠い異国のこと」とは思えなかった。同時に「できることはないか」と考えた。翌朝、大学で同専修のクラスメイトたちにその気持ちを話すと、皆が彼と同じ思いをもっていた。

彼らによるキャンパスでの募金呼びかけが始まったのは1月17日。活動は秋学期の定期試験がほぼ終了する1月28日の金曜日まで。定期試験期間中の募金活動は、彼らにとっては厳しいものだったが、キャンパスにいる学生がふえる時期であるのも事実。実質わずか10日間程ながら、募られた金額は計29万5,350円に達した。その間、思わぬ援軍もあらわれた。外国語学部の若林聡子講師(非常勤)はインドネシア語専修の卒業生でもあり、彼らの活動をかつての仲間たちに伝え報せた。そして募金活動の最終日である1月28日、後輩たちへのフォローとして卒業生間でとりまとめた35万8,360円が彼らに手渡された。あけて翌週、2月1日の火曜日、在校生組と卒業生組をあわせた計65万3,710円が義援金として、(財)京都新聞社会福祉事業団に届けられた。

<活動データ>

- 団体/外国語学部言語学科インドネシア語専修有志
- 目的/スマトラ島沖地震津波復興支援募金
- 場所/ピロティ・ファミリーマート前
- 期間/2005年1月17日~1月28日
- 募金額/653,710円(学内募金額/295,350円)
- 寄付先/財団法人 京都新聞社会福祉事業団

●ニュースで大惨事であることを知り、すぐにも「駆けつけたい」気持ちになりました。でも、これまでの行動力は僕に備わっていませんでした。インドネシア語を学ぶ者なのに、傍観者になりつつある自分が情けなくなりました。

●その気持ちをクラスで話すと全員が同じ。それで、「キャンパスで募金を呼びかけよう」となったのですが、その時もなお「僕らはその程度のことしかできないのか……」という無力感があつたのは事実です。

●秋学期の定期試験は始まるし、雪は降るし、寒さはますます厳しくなってくる。そんな状況だったけれど、気持ちだけが冷める。仲間はい人もいませんでした。逆に、募金に協力してくれた学生たちが「頼むぞ!!」とかけられる声に温もりを感じ、心が温まったほどでした。

●それにしても、卒業生たちの団結やネットワークの強さには驚きました。あの短期間で35万8,360円もの額を募り、届けてくれたのですから先輩たちも皆、僕らと「同じ気持ち」だったのです。

●それでも、僕らが募れたのは先輩たちとあわせて65万3,710円。さらに僕らにできることはないのかと考えました。それで取り組んだのが「現地の肉声」を日本に伝えること。

●インドネシアの全国紙である「コンパス」(Kompas)紙と、同国内で被害が甚大だったナングラ・アチエタル・サラム州の地方紙である「ランピ」(インドネシアの「Search Indonesia」紙の記事を日本語に訳して本学ホームページに掲載しました。

●被災地の復興は長く険しく続きます。でも、遠い異国である日本では、復興支援の気運がすでに風化しつつあります。また、報じられるのは観光地としてなじみあるタイ・プーケットのことがほとんどです。

●日本で数少なく、インドネシア語が読解できる僕たち。これからも、「現地の肉声」を日本に伝える活動を続けたいと思っています。

創立40年の歩み

シリーズ[1] 1963年～1975年

連載
企画

1963

昭和38年

4月 本学設立の発起人会発足

8月 敷地を洛北上賀茂国有林に選定

敷地がなくて大学はできない。用地の確保が難航を極めた時、山歩きも趣味とした荒木先生が閃いた。天啓の妙案は「国有林を借りて造成しそこに大学をつくる」ことだった。酷暑の真夏、手拭を首に巻いた作業服姿の荒木先生は、国有林であった本山（現キャンパス）の雑木林を歩きまわった。8月21日、「神山を仰ぎ見るこの地」をキャンパスに選んだ。

1964

昭和39年

6月 京都産業大学設立準備委員会を結成

●中京区の千代田生命ビルに6月1日、設立準備委員会の事務所が開設された。職員第1号は、女性だった。そこには着工という難題が待っていた。国からの国有林貸与許可は出ても、京都府や風致委員会の態度は厳しかった。「古都の山の緑をいったん剥ぎ取つ」なのだから、当然でもある。

●今、キャンパスは洛北の緑のなかにある。それは、本山の痩せた土壌を考慮し、少ない栄養分でも育つ樹木を計画的に植えた結果である。大きく咲き誇る数々のサクラも、当時に植樹されたもの。本学が40年前に行った「緑化作戦」はいま、「キャンパス庭園化構想」へと発展している。

●第2回となる昭和41年度の入学式での宣誓書署名 ●創立当時のキャンパス（まだ荒涼とした本山に立つ荒木先生） ●ブルドーザーが山肌を削った造成中 ●本学ができる以前の鞍馬街道と本山



●市中をパレードする京都産大生に手を振る荒木先生 ●本学教壇に立つ今日出海教授（初代・文化庁長官） ●学歌の発表が行われた3学部増設記念式典 ●当時の計算機センター

1965

昭和40年

1月 学校法人京都産業大学寄附行為の認可

京都産業大学経済学部・理学部の設置認可

2月 荒木俊馬 初代学長に就任

4月 本館その他初期施設完成

第1回入学式挙行

11月 開学式

●誰もが「300人も受験してくれば大成功」と思っていたが、想像をはるかにこえる願書が届いた。結果、初年度の最終入学者は推薦、二次、三次、あわせて679人となった。当時を知る田村洋幸氏（本学名誉教授）の著書に「経営上からいえば、全員に入学してほしい。だが先生は、厳格に合否ラインを引いた。第一次試験の100人近い不合格者の名簿は、何としても侵すことのできない大学の良心を示していた」と記している。

1966

昭和41年

3月 計算機科学研究所設置

4月 追分寮1号館・体育館・計算機センター完成

5月 世界問題研究所設置

11月 第1回神山祭

林語堂博士講演会

●この年に設置された「世界問題研究所」は、本学の戦略の要でもあった。そこには「コードネーム・ヨシタ」という特使として、当時の佐藤栄作総理の信任状を懐に、キッシンジャー米大統領

この2005年、私たちの京都産業大学は「創立40周年」を迎えます。40年前といえば、父や母が「まだ小学生だった」という在学生も多いはず。歴史と呼ぶには浅くても、創立以来1年ごとの積み重ねによってこの春を加えて「108,450人」の卒業生を輩出してきた40年の歩みは深い。シリーズ第1回は、学祖・荒木俊馬先生（初代学長）が、創立準備に奔走していた1963年から創立10周年を迎えた1975年までの12年間。ふりかえることで、未来を見つめていきたいと思います。

1967

昭和42年

領補佐官と秘密裏に交渉を重ねた若泉敬教授がいた。同教授は1969年についに、ジョン・ニクソン両大統領との面会に赴いた。その使命は「沖縄返還」に關してだった。

1967

昭和42年

4月 経営学部・法学部・外国語学部増設

5月 3学部増設記念式典挙行

学歌発表（荒木俊馬作詞・團伊玖磨作曲）

電子計算機TOSBAC-3400設置

7月 2号館（理学部）完成

8月 3号館（外国語学部）完成

4号館（法学部）・神山寮完成

10月 7号館（学生関係部室・食堂）完成

11月 アーノルド・J・トインビー博士講演会

輔仁大学（台湾）と交流協定締結

●京都産大のコンピュータ教育は、国内の大学のなかで最も早い時期に始まっている。それは開学翌年に「計算機科学研究所」が設置され、その翌年に本格稼働したことが示している。そのための予算は当時で1億5000万円。しかし、それでも担当者が希望する機種を買い取ることができなかった。必要な費用は「倍」だった。これを聞いた荒木先生は次のように述べた。「必要なだけ出そう。大きな買い物だが、日本の次の世代を担う人たちのための私たちの贈り物だから」。

1968 昭和43年

- 3月 5号館(経済学部・経営学部)完成
- 7月 大教室棟完成
- 10月 ハーモン・カーン博士講演会
- 12月 総合グラウンド

(硬式野球場・陸上競技場・馬場)完成

●学界の巨星にふれることで、学生の心を熱くさせることを期待した荒木先生。この頃から、京都産大にはマスコミ注目の著名な教授が多数いた。そのなかに作家の今日出海氏がいた。今教授は東京から定期的に出講してきた。この年の6月、今教授の芸術論講義を学生に混じって荒木先生が聴講していると、新聞記者がカメラマンを伴ってやって来た。周囲が騒がしくなった。今教授が初代の「文化庁長官」に内定したのだ。

1969 昭和44年

- 1月 理学部に応用数学科増設
- 2月 8号館(第1食堂)完成

荒木俊馬 学長から総長に就任

- 3月 経済学部・理学部の第1回卒業式
- 4月 大学院経済学研究科(経済学専攻・理学研究科(数学専攻・物理学専攻)修士課程設置

●念願の総合グラウンドが前年末に完成、学生たちの汗が滴り落ちた。ローマ(1960)に日本代表選手として、メキシコ(1968)に選手兼監督として、両五輪に出場していた荒木先生の長男・雄豪氏(本学名誉教授)率いる馬術部はその頃すでに日本学生馬術界の頂点に駆け上がった。その活躍に引張られ、各クラブの活動が盛んになっていった。秋の市中パレードが京都産大の名物となった。応援団旗や部旗が京都市内に翻った。自主的な人間形成を補完するものとして、運動や文化の課外活動を奨励した荒木先生はいつも笑顔で沿道から手を振り、学生たちを見守った。愛する学生たちへ、第1回卒業式で荒木先生は「君たちと共にこの大学は生まれ育った。諸君は開拓者だ」と語った。

●ポール・A・サミュエルソン博士
(アメリカの経済学者・ノーベル経済学賞受賞)

●カール・D・エルドマン博士
(ドイツの歴史学者)

●視察に訪れたOECD教育調査団

●第1回卒業式



●開学10周年記念式典

●C・F・フォン・ヴァイツゼッカー博士
(ドイツの物理学者・自然哲学者)

●ゲオルギ・A・アルバトフ博士
(ソ連の歴史学者)

●ルイス・ディエス・デル・コラル博士
(スペインの歴史学者・哲学者)

ふりが 未来が

1970 昭和45年

- 3月 保健管理センター棟完成
- 4月 法学部に法学専攻科設置
- 8月 五常寮完成
- 10月 保健診療所発足

社会保険診療業務を開始

レイモン・アロン博士講演会

- 12月 第2グラウンド完成

●この頃、計算機科学研究所の充実には目を見張るものがあった。前年に新設された応用数学科(現コンピュータ科学科)での教育、履修登録や成績管理、等々「日本IT史上初」のことがあった。そしてOECD教育調査団が来日。大学での先駆的なコンピュータ導入を視察に訪れたのは全国でも4大学。関西では京都大学と京都産業大学だけだった。

1971 昭和46年

- 4月 外国語学部外国語専攻科設置

理学部応用数学科を計算機科学科に名称変更

大学院経済学研究科と理学研究科に博士課程設置

- 第2体育館完成

カール・D・エルドマン博士講演会

ポール・A・サミュエルソン博士講演会

1972 昭和47年

- 1月 京都産業大学論集創刊
- 2月 ルイス・ディエス・デル・コラル博士講演会
- 4月 大学院法学研究科法律学専攻修士課程設置
- 6月 津ノ国寮完成
- 10月 ゲオルギ・A・アルバトフ博士講演会

1973 昭和48年

- 4月 電子計算機(TOSBAC3400(Model 4))置換
- 9月 荒木総長ポラード科学アカデミーの要請にて、コペルニクス生誕500年式典出席、講演

学生スクールバス待合所完成

電子計算機EAC100設置

- 12月

1974 昭和49年

- 4月 大学院法学研究科に博士課程設置
- 京都産業大学奨学金制度新設
- 9月 法学部法学専攻科廃止
- 11月 C・F・フォン・ヴァイツゼッカー博士講演会

1975 昭和50年

- 7月 松の浦セミナーハウス完成
- 10月 語学ラボラトリセンター完成

開学10周年記念式典

●1967年に行われた歴史学の世界の権威アーノルド・J・トインビー博士をはじめ、本学は世界の碩学の講演招聘を続けた。1971年に招いたポール・A・サミュエルソン博士はケネディ米大統領のブレンであり、ノーベル経済学賞を受賞した人物だった。二連の講演招聘は、京大生だった頃、かのアインシュタイン博士の講義を受け、それを機に天文学・宇宙物理学の新しい世界を切り拓いて行った荒木先生が、自らの体験を学生たちに分かち合いたいという願いからだった。創立から10年、歴史に名を残す人々による主な講演は9回を数えた。その都度、偉大な人物の講演を聴こうと、日本各地から人々が集まってきた。京都産業大学の名は全国に知られるようになった。そして、「開学10周年記念式典」は栄えある1日となった。

MESSAGE

履修登録は、慎重に!!

本年度春学期のWeb履修本登録

【期間】4月14日(木)～18日(月)

●講義要項を参考に、1週目の授業に出席し、登録する科目を充分考えたうえで、履修登録を行ってください。

●本登録後は、登録科目の変更・修正を認めません。

※履修者数制限のある科目など、本登録前に事前登録が必要な科目もあるので注意を!!

履修登録後は、「確認表」でしっかりチェック!!

【日時】4月22日(金)・23日(土)・25日(月)・26日(火)

8時55分～16時30分(土曜日は12時00分まで)

【場所】5号館ロビー(全学部・全年次)

●登録エラーのまま授業に出席しても、単位は修得できません。確認作業を怠らないでください!!

学部独自の奨励金制度設立

学業奨励金にかわって、全学部一律の奨励金制度ではなく、各学部独自の奨励金制度が設立されました。主な内容は、次のとおりです。

学部	対象人数	奨励の対象	奨励金額
経済	2年次生～4年次生の各年次12名	学業成績優秀者	5万円
経営	2年次生～4年次生の各年次10名	学業成績優秀者	3万円・記念楯
法学	2年次生40名	学業成績優秀者	2万円
	3年次生15名		4万円
	4年次生5名		6万円
	2年次生～4年次生	奨励する資格等取得者	毎年度総額上限10万円
外国語	2年次生～4年次生の各年次28名	学業成績優秀者	2万円
文化	全学年を通じ若干名	学部の奨励に値する活動を収めた者	審査により決定
理学	2年次～4年次の各年次12名	学業成績優秀者	5万円
	数理科学科2年次～4年次の各年次1名	学業成績優秀者	20万円
	物理科学科2年次～4年次の各上位8名		1位7万円
	コンピュータ科学科2年次～4年次の各2名		2位5万円
工学	各学科2年次～4年次の各年次1名		3位3万円
	各学科2年次～4年次(採択人数特に定めます)	学業成績優秀者	4位以下1万円
奨励する資格取得者及び学科のイメージアップに顕著な貢献をした者			10万円
			20万円
			毎年度総額上限30万円

保護者のみなさまへ

奨学金の説明会が開催されます

経済的なサポートはもとより、自立した学びを促す意味でもメリットの高い奨学金。本学独自の制度や日本学生支援機構によるもの等、各種の「出願説明会」が開催されます。「日時・会場」は、WebポータルサイトPOSTや掲示でもお知らせします。

●在学生 3月29日(火)・30日(水)
16時30分～18時15分 103教室

●新入生 4月4日(月)・5日(火)
17時00分～103教室
4月6日(水)
13時15分～103教室

いずれかの日に出席してください。

平成17年度履修相談のご案内

本学では保護者の方々と教職員がご子女の学修や学生生活、将来の進路などを話し合う懇談会や相談期間をタイムリーに設けております。積極的にご参加ください。

＜単位修得状況の相談について＞

成績表は学生本人に渡しておりますが、保護者の方々にも送付しております。内容をお確かめいただき、特に卒業留年の注意信号である「低単位」の傾向が見受けられる場合等はご相談ください。随時、各学部事務室で対応いたします。

＜就職懇談会＞

学生の就職活動は企業の採用活動の早期化により、3年生の後半からと早まっています。また採用手法も多様化、採用基準も厳格化しています。このような環境に対応していくには保護者の方々のご理解も不可欠であり、本学では1年生から3年生の保護者の方々を対象とした「就職懇談会」を開催しております。

★平成17年秋、本学神山ホールで開催予定です。
(詳細は後日ご案内いたします)

NEWS

京都産業大学カードの特典がさらに充実いたしました

産大生の必須アイテム「京都産業大学カード」の特典がさらに充実しました。「京都産業大学カード」を提示すれば、ホテル旅館の宿泊割引や、紳士服・メガネ・スポーツ用品なども優待割引が受けられます。在学生・卒業生はもちろんのこと、保護者・一般の方も入会できます。入会手

続は、本館2階経理部(Tel.075-705-1415)へお問い合わせください。



<http://www3.kyoto-su.ac.jp/outline/card/index.html>

INFORMATION

大学時代に一度は留学!!
今から準備すればOK

留学制度等説明会のご案内

大学時代に留学し、語学力や異文化理解を高め、人間としての「器」を大きくしておきたい!!という方。次の留学制度等の説明会にぜひ参加してください。留学するためには、今なにを準備すればよいのか、などの情報が得られます。

●場所/12号館12502教室

●留学制度説明会

4月6日(水)12時30分～13時30分

●夏季短期語学実習説明会

4月7日(木)12時30分～13時00分

●交換・派遣留学生募集説明会

4月11日(月)12時30分～13時00分



NEWS

保健管理センターが あなたの禁煙を応援します!!

ニコチン依存からの脱却には「禁煙補助剤」を上手に使うことが効果的!!「タバコをやめようかな...」と思ったら保健管理センターに相談ください。希望者には「禁煙パッチ」10枚を無料で提供し、あなたの禁煙のスタートをサポートします。

*禁煙パッチの使用には医師の処方が必要です

指定場所以外は全面禁煙です

他人のタバコの煙を吸われる「受動喫煙」を防止すること等を目的として、平成15年5月1日「健康増進法」が施行されました。社会的な流れとして、公共の場での喫煙が認められなくなっています。「卒煙」をお勧めしますが、喫煙される方は、灰皿の設置してある指定場所をご利用ください。



※記載の片道料金は一般運賃です。
※乗り換えに必要な時間は含んでいません。

ルート@01 京阪沿線から

A / 出町柳駅→叡山電鉄鞍馬線で約18分→二軒茶屋駅→無料シャトルバスで約5分→本学 / 出町柳から計23分~28分 [片道計320円]
B / 出町柳駅→京都バス36系統で約25分(その他の系統で約35分)→本学 / 出町柳から計25分~35分 [片道計280円]

ルート@02 阪急沿線から

C / 烏丸駅・四條駅→地下鉄烏丸線で約12分→北山駅→京都バスで約12分→本学 / 四條烏丸から計24分~29分 [片道計450円]
D / 烏丸駅・四條駅→地下鉄烏丸線で約10分→北大路駅→市バスで約15分→本学 / 四條烏丸から計25分~30分 [片道計450円]
E / 烏丸駅・四條駅→地下鉄烏丸線で約16分→国際会館駅→京都バスで約10分→本学 / 四條烏丸から計26分~31分 [片道計360円]

ルート@03 近鉄沿線から

F / 丹波橋駅→京阪電車で約14分→出町柳駅→叡山電鉄鞍馬線で約18分→二軒茶屋駅→無料シャトルバスで約5分→本学 / 丹波橋駅から計37分~42分 [片道計640円]
G / 竹田駅→地下鉄烏丸線で約22分→北山駅→京都バスで約12分→本学 / 竹田駅から計34分~39分 [片道計510円]
H / 竹田駅→地下鉄烏丸線で約20分→北大路駅→市バスで約15分→本学 / 竹田駅から計35分~40分 [片道計480円]
I / 竹田駅→地下鉄烏丸線で約26分→国際会館駅→京都バスで約10分→本学 / 竹田駅から計36分~41分 [片道計390円]

ルート@04 地下鉄東西線沿線から

J / 烏丸御池駅→地下鉄烏丸線で約10分→北山駅→京都バスで約12分→本学 / 烏丸御池駅から計22分~27分 [片道計450円]
K / 烏丸御池駅→地下鉄烏丸線で約8分→北大路駅→市バスで約15分→本学 / 烏丸御池駅から計23分~28分 [片道計450円]
L / 烏丸御池駅→地下鉄烏丸線で約14分→国際会館駅→京都バスで約10分→本学 / 烏丸御池駅から計24分~29分 [片道計360円]

ルート@05 JR沿線から

M / 京都駅→地下鉄烏丸線で約17分→北山駅→京都バスで約12分→本学 / 京都駅から計29分~34分 [片道計480円]
N / 京都駅→地下鉄烏丸線で約15分→北大路駅→市バスで約15分→本学 / 京都駅から計30分~35分 [片道計450円]
O / 京都駅→地下鉄烏丸線で約20分→国際会館駅→京都バスで約10分→本学 / 京都駅から計30分~35分 [片道計360円]



新入生のための交通案内 キミのスムーズはどれ?

平成16年度 学生表彰

活躍した課外活動団体や個人、自治会活動や地域社会活動に貢献した団体や個人に贈られる学生表彰。平成16年度は次の仲間たちに授けられました。

課外活動 / 学長表彰

〈団体〉●空手道部 ●ボウリング部 ●自転車競技部
〈個人〉●空手道部 / 荒賀知子・大島望 ●自転車競技部 / 小堺浩一・山崎晃・太田真明 ●女子テニス部 / 山田幸代・後路志帆 ●男子テニス部 / 上村剛弘・村上恵一・松井達郎 ●ヨット部 / 阿部幸久・福井将太 ●陸上競技部 / 吉田恵美可・花田章裕・中村佳弘・音川健・桐山樹・伊藤舞 ●バスケットボール部 / 大原健・加藤貴則・菊池宏之・菅谷徹 ●準硬式野球部 / 松田匡史・羽賀電司 ●ボウリング部 / 井上美華・岸田有加・渡辺佳嗣 ●ラグビー部 / 田中史朗

課外活動 / 学生部長表彰

〈団体〉●居合道部 ●硬式野球部 ●準硬式野球部 ●杖道部 ●スキー部 ●バスケットボール部 ●馬術部 ●ヨット部 ●陸上競技部 ●アングリングクラブ ●混声合唱部
〈個人〉●居合道部 / 中川朋彦 ●ウエイトリフティング部 / 中本圭 ●猪野裕樹 ●空手道部 / 若元泰樹 ●自転車競技部 / 前田修平 ●辻龍一 ●鈴木幸弘 ●スキー部 / 六十刈彩 大内敬太 ●馬術部 / 今橋和也 ●手塚誠 ●水上競技部 / 前川昌仁 ●ヨット部 / 藤原裕 ●豊田俊介 ●陸上競技部 / 恵濃繁 桐山雄司 中川佳治 ●辻裕樹 ●遠藤和将 ●山内富士夫 原田将人 石川勝久 ●愛敬博之 土岐啓徳 ●喜島琢也 和田裕輝 田中誠 ●アングリングクラブ / 井上隆詞 ●池田謙 ●野口達也 ●中尾亮子 ●酒井和行 ●小川久美 ●ボウリング部 / 鈴木理沙 ●稲中健・岸田健佑・嘉数正悟 幸地俊輔 中川友太

自治会貢献 / 学長表彰

〈個人〉●志学会執行委員会 / 石垣智都・古谷倫子 ●体育会 / 石崎靖人 ●文化団体連盟本部 / 北川将己

自治会貢献 / 学生部長表彰

〈個人〉●志学会執行委員会 / 青山優紀 ●体育会 / 中野太一 ●松浦麻衣子 ●文化団体連盟本部 / 古澤祐一 木下大輔

地域社会貢献 / 学長表彰

〈団体〉●近隣自治会と長年にわたり連携し清掃活動等の奉仕活動に貢献 / 新社会ボランティアサークル
〈個人〉●京都産業大学学生地域安全推進隊サガタリウスチームのメンバーとして地域活動に貢献 / 大山隆弘

大学の発展に貢献 / 学長表彰

〈個人〉●全学応援団長として大学行事に協力し発展に寄与 / 堀光晴 ●セルジュ・リファール 国際コンクールに出場し本学の名誉を高めた / 石川直美 ●日本学生野球協会より平成16年度優秀選手賞を受賞 / 河野大輔



profile

1965年、京都府立洛北高校から第1期生として京都産業大学経済学部に入學。69年、設置された京都産業大学大学院経済学研究科修士課程へ卒業と同時に進學。71年には同研究科博士課程に進學(1977年に単位取得満期退學)。76年から77年にかけて約1年間、米国ジョージ・ワシントン大学に交換研究員として赴任。79年に鳥取女子短期大学(当時名称)講師。81年に助教、86年に教授、2001年に学長となり現在。



●第1期生として入学された経緯は?

●現役の時、受験に失敗。それで浪人していたある日、父親が「京都産業大学が来春開学」という情報を得て、私に勧めてくれたのです。

●新設大学のどこに魅かれたのですか?

●当時は学生運動の風が各大学を席巻しつつあった頃。その中で京都産大は「国際的視野を持った次代の日本を担う人材育成」を掲げた建学の精神を、勇気をもって宣言していた。父や私はこれに感銘を受けて志望を京都産大に。第1期生として入学しました。

●創立時の本学はどのような大学でしたか?

●本館しかない……要するに「なんにもない」大学でした(笑)。しかし教員の陣容は素晴らしく、著名な教授や情熱にあふれた若き講師が多数おられた。施設的にはなんにもなくても、夢や希望がいっぱいある大学でした。そして、それら先生方との濃密な関係から、学ぶことの楽しさや面白さを知りました。

●学生としての山田学長は?

●すべてに対して意欲的だったと思います。何人かで柔道部を設立したのですが、その時「絶対に勉学をおろそかにしない」ことを自分に課しました。「文武両道」という言葉があります。私にとっては「文武一途」。勉学もスポーツも、ふたつあつて一人前なのです。

鳥取短期大学 学長
山田 修平さん
やまだ しゅうへい
1969年 経済学部卒業
第1期生

「学生にとって大切なのは教員との親密な交流」。
自身の学生時代の成長を通して語る鳥取短大の学長は、
創成期の京都産大に学んだ第一期生。

●山田修平さん ●インタビューア

●なにか逸話がありますか?

●3年時に柔道部寮を作ったのですが、寮生となった部員に「勉強しない者」がちらほら。定期的な勉強会を企画し、寮で行い続けました。フランス語が堪能な女性と知りあったのもその頃。それで寮に引き、フランス語学習会を開催しました。すると予想以上の大盛況。ところが顔ぶれを見てみるとフランス語を履修していない学生もいっぱい。そう、当時の京都産大では「女性を前にする」ことが、めつたにない機会だったのです(笑)。

●鳥取短大の学長という今へ

●京都産大からなにかがなりましたか?

●教職員も学生も全員が「無から有を生む」充実感を常に味わっていました。おかげで今も「やってみよう!!」というチャレンジ精神は旺盛。それで気づけば学長室のイスを温める間もなく、鳥取県教育委員会や社会福祉協議会委員長など、その他30以上の職を仰せつかって飛びまわる状況に。授業も週4コマ受け持っています。講演も年間100回以上こなします。

●また、設立当初の経済学研究科博士課程に在籍中、国連は性差別撤廃に世界的規模で取り組むために、1975年を「国際婦人年」とすることを決議した。これを機に「女性労働」の研究を始め、それが社会福祉や幼児教育を専門領域とする学者としての今につながっていきます。但し、これらのテーマを示唆してくださったのは大学院の指導教授。深い恩を感じています。

●博士課程在籍時に荒木俊馬先生の勧めで、米国ジョージ・ワシントン大学に交換研究生として赴いたことも大きかった。学習レベルも生活スタイルも、日米の間に大きな差があった30年ほど前のことです。

●京都産大の評議員でもある山田学長から後輩や母校へメールをどうぞ

●総合大学として1万3000人の学生を抱える京都産大と学生数650人の鳥取短大。すべてが大きく異なるものの、「自己形成の場」であることは同じ。私は常々学生たちに「5H



学食で、研究室で、あらゆるシーンで「学生と教員の濃密な関係づくり」を笑顔で実践されている山田学長。鳥取短大に、創成期の京都産大をみる思いです。

を身につけよう」と説いており、それは後輩諸君にも伝えたい。

●5Hとは専門知識を修めたヘッド(Head)、専門技術を備えたハンド(Hand)、感性ゆたかなハート(Heart)、体力みなぎるヘルス(Health)、夢や希望を示すホープ(Hope)。鳥取短大生とちがって、後輩諸君には4年という時間がある。よりハイレベルな5Hを培ってくれることを期待します。そのためには教員と大いに語りあつてほしい。私同様、人は人によつて育まれるのですから。それも、鳥取短大では私を含む教職員一同が「全学生の顔と名前を覚えよう」と努めています。多くの教職員が「自分のことを知っている」という思いは自己存在への自信を生み、学びモチベーションのベースとなります。

●しかし授業も受け持ち、柔道部と新聞部の顧問も続け、ランチも学食でとっていますが、名前と顔が一致する学生は450人程度。今の京都産大の環境ならその数が半分になつてもおかたない。とはいえ、私が「学生と教員の親密な交流を大切にしたい」と思うに至ったのは、創成期の京都産大にそれがあつた、皆がそれによつて高まつたから。創立40周年を迎える今年、京都産大が見つめるべき初心はこれでしょう。